

科目名	組織マネジメント/組織行動論 Organization Theory/ Organizational Behavior		選択	2 単位
学期・曜日・時限	秋・月・3 限	秋・月・5 限	-	-
担当教員名	一守 靖	e - mail		

＜講義の概要と目的＞

人の価値観や働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。

組織マネジメント/組織行動論は、組織内の個人や職場の人間関係などを中心に、職場における人間行動・人間関係の理解を目的としています。講義の前半では特に組織の中の個人に焦点を当て、後半は特に組織の中の集団に焦点を当てて学習します。

＜到達目標＞

到達目標は以下の2点です。

- ・組織行動理論の体系化を通じ、実際の事例に対する分析能力を身につける
- ・組織の中で自己のリーダーシップをいかに開発し発揮するかについての気づきを得る

履修者が、本講義を通して学んだ諸理論を、単なる学問上の知識としてではなく、日常生活や実際のビジネスの現場において活用できるようになることを期待してします。

＜アクティブ・ラーニング要素＞

本講義では組織行動論全般に関して、関連する理論を参照しつつ、多くのセッションで具体的な個人や組織の事例（ケース）を取り上げ、その内容について履修者全員でディスカッションすることによって各テーマの理解を深める、ケースメソッド授業を取り入れています。

本学では企業内外において起業できる人材、グローバルに活躍できる人材、地域社会に貢献できる人材の育成をカリキュラムポリシーの中心に据えていることから、本講義でディスカッションの題材として用いる事例（ケース）は、国内大企業の事例に偏ることなく、ベンチャー企業の事例ならびにグローバル企業の事例も取り扱う予定です。

＜講義計画＞
1 回目：＜組織行動学概論＞
・要点：講義の概要、講義の進め方を説明したのち、組織行動学とはどのような研究・ビジネス実践領域かを説明します。
2 回目：＜個人の行動＞
・要点：価値観、態度、職務満足感、認知、学習という個人行動の基礎について、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。
ケース「飲みニケーション」
3 回目：＜異なる文化における価値観＞
・要点：文化の多様性について、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。
ケース「有能な上司」

4 回目：＜パーソナリティと感情＞

・要点：パーソナリティと感情、今日的アイデンティティ形成と組織マネジメントについて、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「沖縄アクターズスクール」

5 回目：＜動機づけ理論＞

・要点：動機づけ理論について、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「セールスインセンティブ・プログラム」

6 回目：＜集団の行動＞

・要点：集団行動の基礎、チーム活動について、講義とディスカッションを通して学びます。

7 回目：＜コミュニケーション＞

・要点：コミュニケーションの基礎と今日的課題について、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「パフォーマンス改善プラン」

8 回目：＜コンフリクトと交渉＞

・要点：コンフリクト、ストレスマネジメントとアンガーマネジメントについて、講義とディスカッションを通して学びます。

9 回目：＜組織構造＞

・要点：組織デザインについて、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「シンジェンタのテリトリーマネジメント」

10 回目：＜組織文化（１）＞

・要点：組織文化について、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「バリュー浸透活動」

11 回目：＜組織文化（２）＞

・要点：組織文化について、ケースによるディスカッションを通して学びます。

ケース「HP ウェイ」

12 回目：＜リーダーシップ開発＞

・要点：リーダーシップコンピテンシーとその開発について、講義とディスカッションを通して学びます。

13 回目：＜リーダーシップスタイル＞

・要点：今日までと明日からのリーダーシップスタイルについて、ケースによるディスカッションと講義を通して学びます。

ケース「新任部長」

14 回目：＜組織変革＞

・要点：組織変革と組織開発について、講義とディスカッションを通して学びます。

15 回目：＜変革のリーダーシップ＞

・要点：変革のリーダーシップについて、ケースによるディスカッションを通して学びます。

ケース「NCR と Bill Nuti」

＜講義の進め方＞

事前に配布するケースや資料等を題材として、担当教員と履修生、および履修生間でディスカッションしながらセッションを進行していきます。これと同時に、必要に応じて講義を組み込み、受講生

の理解を深めていきます。 講義は＜講義計画＞に示した通りに進めていく予定ですが、履修者の理解の度合いと問題意識の状況によって適宜内容を修正する場合や講義の順番を変更する場合があります。
＜事前事後学修内容＞ 講義には、事前に配布するケースあるいは資料等を読み込み、設問に対する自分なりの答えを持って参加してください。事後学習としては、講義で学んだ内容を振り返り、自らが所属する（所属したことがある）組織における状況と照らした場合にどのように応用可能かについて考えてみるのが望ましいです。事前学習については、講義にて学んだ内容を整理し、内面化することが求められます。 ＜予習・復習時間＞ 各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定されます。
＜教科書及び教材＞ 講義で使用するケース、資料等は事前に履修者がアクセスできる環境にアップロードしますので、各自ダウンロードしてください（詳細は講義内に案内します）。
＜参考書＞ スティーブン P. ロビンズ（著）、高木 晴夫（翻訳）（2009/12/11）「新版：組織行動のマネジメント」ダイヤモンド社 その他講義時間内外に適宜紹介します 当該書籍は、主に本講義への理解を深めるための自主学習テキストとして位置づけます。
＜成績評価方法＞ 欠席 6 回以上は成績評価しません。 評価は、講義・議論への参加を通じた貢献（70%）と期末レポート（30%）で構成します。 期末レポートの詳細は、講義の後半にお知らせします。
＜課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法＞ 課題やレポートについては、講義時に随時、解説・フィードバックを行います。
＜履修条件＞ 特にありません。
＜ディプロマポリシーとの関連＞ 基礎知識の学修に該当。
＜録画映像の視聴＞ 可
＜オフィスアワー＞ 月曜日 4 限と 6 限。面談の重複を避けるために、メールにてご連絡ください。
＜その他＞ 事前・事後学習として、講義で習った知識が、学生生活や会社での業務にどのように活かすことができるかについて検討してください。これによって単なる理論の理解ではなく、ビジネスの現場で使えるスキルを修得することが可能となります。